

# 2021年度通期決算 電話会議 資料

2022年5月20日（金）

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

INSURANCE GROUP

## 本日のポイント

### 2021年度 業績

- 正味収入保険料は、国内損保子会社および海外保険子会社ともに増収となり、前期比1,080億円増収の3兆6,090億円と過去最高。
- 当期純利益も、国内損保子会社、国内生保子会社、海外保険子会社が増益となり、1,184億円増益の2,627億円と過去最高益。2021年11月発表の業績予想を327億円上回った。
- グループ修正利益は1,325億円増益の3,471億円。

### 2022年度 業績予想

- 正味収入保険料は、国内損保子会社の自動車・火災保険等での増収や、海外保険子会社のアジアでの増収やMS Amlinでの料率引上げ、為替影響等により1,439億円の増収を予想。
- 当期純利益は△227億円減益の2,400億円。国内損保子会社は、自動車保険のロスの増加や前期の初年度収支残の取崩の反動等により横ばい。国内生保子会社もMSP生命の前期のターゲットヒット等による利益増の反動などにより減益。海外保険子会社はMS Amlinの収益回復を主因に増益。
- グループ修正利益は△471億円減益の3,000億円。

### 株主還元

- 2021年度決算分は、年間配当180円（前期比25円増配）と自己株式取得750億円（上半期発表分250億円+今回発表分500億円）を予定。
- 2022年度決算分の年間配当予想は185円。

## 全体目次

### 2021年度通期決算の概要

グループ連結	P5-12
国内損害保険会社	P13-15
国内生命保険会社	P16-17
海外保険子会社	P18
（参考）国内損害保険会社主要 2 社の業績概要	P19-21
（参考）MS Amlin 業績概要	P22
（参考）ESRの状況	P23

### 2022年度業績予想

グループ連結	P25-29
今回業績予想の主な前提	P30
国内損害保険会社	P31-32
国内生命保険会社	P33-34
海外保険子会社	P35
（参考）国内損害保険会社主要 2 社の概要	P36-37
（参考）MS Amlin 業績予想	P38

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」もご参照ください。

## 2021年度通期決算の概要

損保子会社

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度		
				前期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)	37,517	37,232	<b>38,215</b>	982	2.6%
正味収入保険料	35,737	35,009	<b>36,090</b>	1,080	3.1%
三井住友海上	15,479	15,595	<b>15,793</b>	197	1.3%
あいおいニッセイ同和損保	12,767	12,814	<b>12,913</b>	99	0.8%
三井ダイレクト損保	363	364	<b>354</b>	△ 10	△ 3.0%
海外保険子会社	7,119	6,235	<b>7,030</b>	795	12.8%

生保子会社

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度		
				前期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)*	13,934	12,973	<b>13,144</b>	170	1.3%
三井住友海上あいおい生命	5,212	5,119	<b>5,019</b>	△ 100	△ 2.0%
三井住友海上プライマリー生命	8,721	7,854	<b>8,124</b>	270	3.4%
生命保険料	9,437	△ 2,023	<b>5,200</b>	7,223	-

\* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2021年度通期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は、国内損保子会社および海外保険子会社ともに増収となり、前期比1,080億円、3.1%の増収の3兆6,090億円と過去最高。
- ・国内損保主要2社計の正味収入保険料は、火災保険および自賠責保険が減収となったものの、自動車保険や新種保険の増収により296億円、1.0%の増収。除く家計地震・自賠責ベースでは495億円、1.9%の増収。  
 火災保険は、2021年1月の料率改定によるレートアップ効果があったものの、前期の大量更改契約の反動の影響が大きく、△48億円の減収。  
 自動車保険は、契約台数の増加などにより、235億円の増収。  
 新種保険は、国内の大口契約獲得や中小企業向けパッケージ商品の販売増により、170億円の増収。  
 自賠責保険は、料率改定の影響により△196億円の減収。
- ・海外保険子会社の正味収入保険料は、MS Amlinにおける料率引上げや為替影響等により795億円の増収。為替影響を除いても281億円の増収。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:16ページを参照。MSP生命:17ページを参照。

## グループ連結（2021年度通期）①業績の概要 2（ボトムライン）

（億円）

	2020年度	2021年度			通期予想 (11月発表)
			前期比	増減率	
経常利益	3,065	<b>3,904</b>	839	27.4%	
三井住友海上	1,316	<b>1,842</b>	526	40.0%	
あいおいニッセイ同和損保	324	<b>809</b>	484	149.3%	
三井ダイレクト損保	13	<b>8</b>	△ 5	△ 41.4%	
三井住友海上あいおい生命	256	<b>390</b>	134	52.4%	
三井住友海上プライマリー生命	1,600	<b>877</b>	△ 723	△ 45.2%	
海外保険子会社	128	<b>396</b>	268	209.3%	
その他・連結調整等	△ 574	<b>△ 419</b>	154	-	
当期純利益※	1,443	<b>2,627</b>	1,184	82.0%	327
三井住友海上	922	<b>1,457</b>	535	58.0%	77
あいおいニッセイ同和損保	216	<b>539</b>	323	149.8%	59
三井ダイレクト損保	8	<b>7</b>	△ 1	△ 16.2%	5
三井住友海上あいおい生命	119	<b>210</b>	91	76.9%	30
三井住友海上プライマリー生命	431	<b>530</b>	98	22.9%	280
海外保険子会社	△ 31	<b>245</b>	277	-	△ 144
その他・連結調整等	△ 221	<b>△ 363</b>	△ 141	-	18
					<b>2,300</b>
					<b>1,380</b>
					<b>480</b>
					<b>2</b>
					<b>180</b>
					<b>250</b>
					<b>390</b>
					<b>△ 382</b>

※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

## グループ連結（2021年度通期）①業績の概要 2（ボトムライン）

### < 当期純利益 >

#### （グループ連結）

- ・当期純利益は1,184億円増益の2,627億円と過去最高益。

#### （国内損保主要2社）

- ・保険引受利益は、自動車保険のロスが前期の新型コロナ影響の縮小により増加したものの、増収に伴うアード保険料の増加、初年度収支残の取崩等により601億円の増益。
- ・資産運用・その他収支は、有価証券評価損が増加したものの、有価証券売却損益や利配収入の増加により410億円の増益。
- ・当期純利益は、858億円増益の1,997億円。

#### （国内生保子会社）

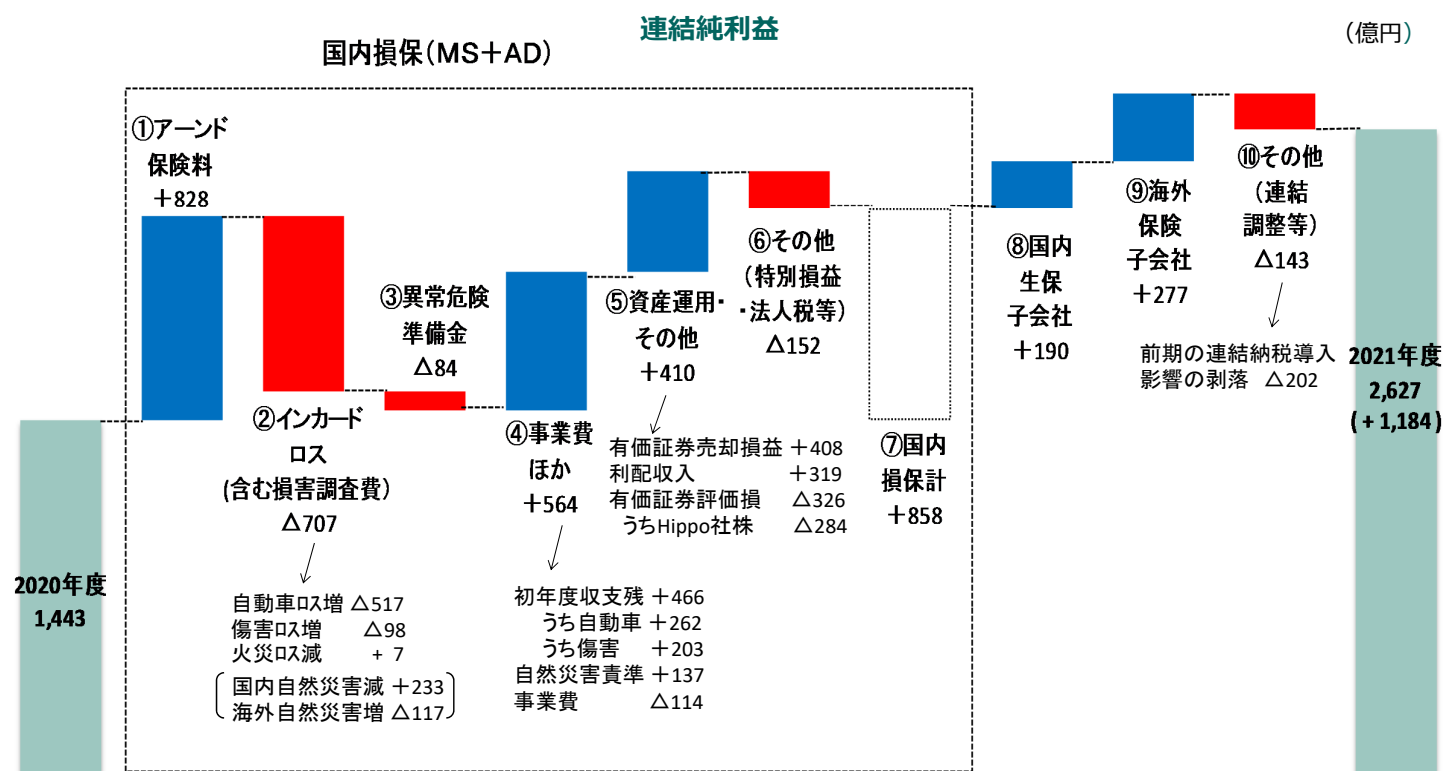
- ・MSA生命：16ページを参照、MSP生命：17ページを参照

#### （海外保険子会社）

- ・海外保険子会社：18ページを参照、MS Amlin：22ページを参照

## グループ連結（2021年度通期）②前期との比較 1

・国内損保計(⑦)は、インカードロス(②)が増加したものの、アード保険料の増加(①)、事業費ほか(④)および資産運用・その他(⑤)の増加により858億円の増益。国内生保子会社(⑧)はMSA生命、MSP生命ともに増益。海外保険子会社(⑨)は前期の新型コロナ影響の剥落および海外生保の大幅な増益などにより277億円の増益。以上より、当期純利益は1,184億円の増益。



## グループ連結（2021年度通期）②前期との比較 2

### 当期純利益の内訳

(億円)

	2020年度	2021年度	前期比
当期純利益	1,443	2,627	1,184
国内損保 <sup>※1</sup> 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	114	715	601
アード保険料 ①	24,959	25,787	828
インカードロス(含む損害調査費) ②	△15,091	△15,799	△707
異常危険準備金損益 ③	△653	△737	△84
事業費ほか <sup>※2</sup> ④	△9,099	△8,534	564
資産運用・その他 ⑤	1,526	1,936	410
その他(特別損益・法人税等) ⑥	△502	△654	△152
国内損保計 ⑦	1,138	1,997	858
国内生保子会社 ⑧	550	740	190
海外保険子会社 ⑨	△31	245	277
その他(連結調整等) ⑩	△212	△355	△143

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「事業費ほか」には、初年度収支残や自然災害責準、為替差損益などが含まれる

## グループ連結（2021年度通期）③グループ修正利益

- 国内損保事業、海外事業が大幅な増益となったことに加え、国内生保事業も増益となったことから、グループ修正利益は1,325億円増益の3,471億円と過去最高益となった。

(億円)

	2020年度	2021年度		通期予想 (11月発表)	
		前期比	予想比		
グループ修正利益 ※1	2,146	<b>3,471</b>	1,325	471	<b>3,000</b>
国内損保事業	1,585	<b>2,307</b>	721	317	<b>1,990</b>
国内生保事業	569	<b>757</b>	187	307	<b>450</b>
海外事業	△ 71	<b>343</b>	414	△ 156	<b>500</b>
金融サービス事業/リスク関連事業	61	<b>63</b>	1	3	<b>60</b>
グループ修正ROE ※1	6.7%	<b>9.5%</b>	2.8pt	1.0pt	<b>8.5%</b>

※1「グループ修正利益」、「グループ修正ROE」の定義は最終ページご参照。

(参考)

$$\text{グループ修正利益 } 3,471 = \text{連結当期純利益 } 2,627 + \text{異常危険準備金等繰入・戻入額}^{※2} 591 - \text{その他特殊要因}^{※3} \Delta 249 + \text{非連結グループ会社持分利益 } 2$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△252

## グループ連結（2021年度通期）④当年度発生自然災害ロス

- 国内の自然災害ロスは△233億円減少の477億円。
- 海外の自然災害ロスは、欧州洪水やハリケーン・アイダを主因に108億円増加の646億円。

### 国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (11月発表)
	2020年度	2021年度	前期比	
三井住友海上	427	<b>262</b>	△ 165	310
あいおいニッセイ同和損保	283	<b>215</b>	△ 68	200
合計	711	<b>477</b>	△ 233	510

### 海外自然災害の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (11月発表)
	2020年度	2021年度	前期比	
あいおいニッセイ同和損保	165	<b>252</b>	87	275
MS Amlin <sup>※1</sup>	230	<b>448</b>	218	465
上記以外(三井住友海上、海外子会社)	21	<b>65</b>	44	59
連結調整 <sup>※2</sup>	120	<b>△ 120</b>	△ 241	△ 120
合計	537	<b>646</b>	108	680

(参考:2021年度)<sup>※1</sup>

欧州洪水	267
ハリケーン・アイダ	304

※1 MS Amlinの欧州洪水およびハリケーン・アイダに係る計上額は317億円。

※2 連結調整は、2021年2月北米寒波に係る追加計上額(2020年度)および戻入額(2021年度)。

※ 海外自然災害の集計範囲は社内管理ベース。三井住友海上は欧州洪水およびハリケーン・アイダに限る。

### 国内・海外自然災害の影響の合計

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (11月発表)
	2020年度	2021年度	前期比	
合計	1,249	<b>1,124</b>	△ 125	1,190

## 国内損害保険会社（2021年度通期）①主要2社の業績概要 1

- ・ 保険引受利益は、自動車保険や海外自然災害のロスが増加したものの、アード保険料の増加、初年度収支残の取崩などにより601億円の増益。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	28,706	296	15,793	197	12,913	99
アード保険料 <sup>※2、※3</sup>	25,787	828	14,268	458	11,519	369
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup>	(-)	15,799	8,705	311	7,093	396
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup>	(-)	8,914	4,841	83	4,072	30
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	5,508	153	2,924	87	2,584	65
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	3,405	△ 38	1,917	△ 3	1,488	△ 35
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,453	685	859	300	593	385
異常危険準備金損益	△ 737	△ 84	△ 449	△ 129	△ 288	44
保険引受利益	715	601	410	171	305	429
EI損害率 <sup>※2</sup>	61.3%	0.8pt	61.0%	0.2pt	61.6%	1.5pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	59.4%	0.1pt	59.0%	△ 0.8pt	59.8%	1.2pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	33.9%	0.2pt	33.0%	0.3pt	35.0%	0.1pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	93.3%	0.3pt	92.0%	△ 0.5pt	94.8%	1.3pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※3 アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2021年度通期）①主要2社の業績概要 2

- ・ 資産運用・その他収支は、有価証券評価損が増加したものの、政策株式・ファンドの売却益の増加、ファンドや海外子会社、政策株式からの配当金の増加などにより410億円増加。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
保険引受利益	715	601	410	171	305	429
ネット利息及び配当金収入	1,438	319	1,006	298	431	20
有価証券売却損益	1,080	408	907	409	172	△ 1
有価証券評価損 (-)	345	326	307	298	38	28
資産運用・その他収支	1,936	410	1,431	355	504	54
経常利益	2,651	1,011	1,842	526	809	484
特別損益	△ 64	5	20	14	△ 85	△ 8
税引前当期純利益	2,587	1,016	1,863	540	724	475
法人税等	590	157	405	5	184	152
当期純利益	1,997	858	1,457	535	539	323

	2社合計(単純合計)	
		前期比
(参考) 政策株式売却額	1,181	154

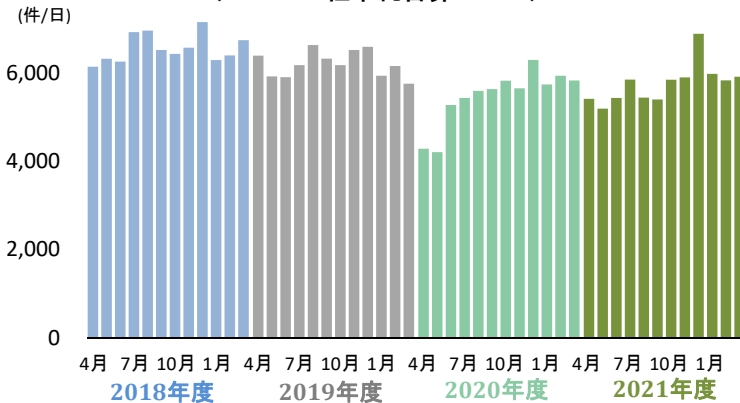


## 国内損害保険会社（2021年度通期）②自動車保険の状況

- ・事故件数は、外出自粛による交通量減少によって大きく減少した前期の反動により、通期累計で前期比5.5%の増加。ただし、2019年度の通期累計との比較では△6.3%の減少。
- ・EI損害率は2.5pt上昇の56.9%。

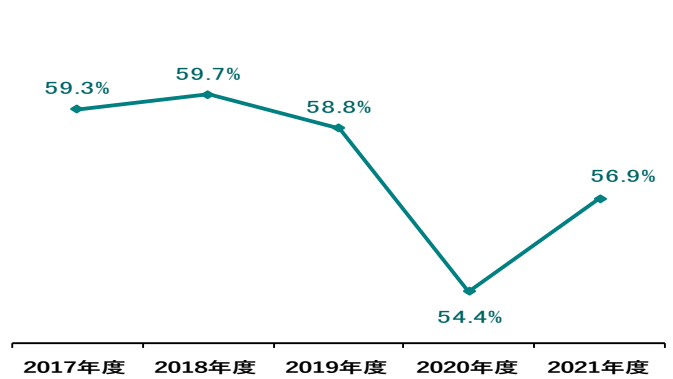
事故件数の推移（国内、1日あたり、除く自然災害）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



### 保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.4%	△0.2%	+0.2%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.9%	+3.7%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.3%	+0.4%	+0.7%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.2%	+2.9%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4-3月）の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2021年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2022年3月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-3月

## 国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2021年度通期）業績概要

- ・新契約年換算保険料は、法人向け商品（法人定期、収入保障）の販売増加等により2.5%の増収。なお、2019年度対比では△8.3%。
- ・当期純利益は、責任準備金繰入負担の減少や資産運用収益の増加、経費の削減等により91億円の増益。

### 三井住友海上あいおい生命

（億円）

	2019年度	2020年度	2021年度		
				前期比	増減率
新契約高（個人合計）	20,684	17,690	<b>16,904</b>	△785	△4.4%
新契約年換算保険料	293	262	<b>269</b>	6	2.5%
うち 第三分野	192	146	<b>140</b>	△6	△4.3%
保有契約高（個人合計）	244,580	242,669	<b>238,477</b>	△4,191	△1.7%
保有契約年換算保険料	4,481	4,479	<b>4,438</b>	△40	△0.9%
うち 第三分野	1,381	1,460	<b>1,524</b>	63	4.3%
保険料（グロス収入保険料）	5,212	5,119	<b>5,019</b>	△100	△2.0%
経常利益	186	256	<b>390</b>	134	52.4%
特別損益	△9	△14	<b>△12</b>	1	-
当期純利益	75	119	<b>210</b>	91	76.9%
基礎利益	136	248	<b>345</b>	97	39.1%
EEV	8,902	9,583	<b>9,236</b>	△347	
参考：EEV(UFR適用した場合)	10,179	10,653	<b>9,976</b>	△677	
純資産価値	5,061	4,212	<b>2,241</b>	△1,971	
保有契約価値	3,840	5,370	<b>6,994</b>	1,624	
うち新契約価値	494	447	<b>545</b>	97	



## 国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2021年度通期）業績概要

- ・ グロス収入保険料は、新型コロナの感染が継続する中でも、非対面を組み合わせた営業・研修活動の積極展開により、3.4%増収。
- ・ 経常利益は、運用目標値に達した契約が多数発生し多額の有価証券売却益を計上した前期に比べ減益。当期純利益は価格変動準備金への繰入額が減少したことから98億円の増益。

### 三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	
				前期比	増減率
新契約高（個人合計）	8,827	7,882	<b>8,196</b>	313	4.0%
保有契約高（個人合計）	65,140	65,958	<b>68,036</b>	2,077	3.2%
保険料（グロス収入保険料）	8,721	7,854	<b>8,124</b>	270	3.4%
経常利益	314	1,600	<b>877</b>	△ 723	△ 45.2%
特別損益	△ 35	△ 1,005	<b>△ 140</b>	864	-
価格変動準備金繰入・戻入	△ 35	△ 1,005	<b>△ 140</b>	864	-
当期純利益	203	431	<b>530</b>	98	22.9%

### 金利・為替影響

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度
金利影響	△ 96	1,113	<b>36</b>
為替影響	△ 15	△ 210	<b>200</b>
合計*	△ 112	902	<b>237</b>

※ 有価証券売却損益を含む(2020年度 +1,513億円、2021年度 +110億円)

## 海外保険子会社（2021年度通期）業績概要

- ・ 正味収入保険料は、料率引上げや為替影響等により795億円の増収。
- ・ 当期純利益は、前期の新型コロナ影響の剥落や海外生保の大幅な増益などにより277億円の増益。MS AmlinについてはP22を参照。

### 海外保険子会社

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	
				前期比	増減率
正味収入保険料	7,119	6,235	<b>7,030</b>	795	12.8%
アジア	1,796	1,693	<b>1,785</b>	91	5.4%
欧州	4,879	4,133	<b>4,773</b>	640	15.5%
米州	442	407	<b>471</b>	63	15.5%
当期純利益	361	△ 31	<b>245</b>	277	-
アジア	178	239	<b>296</b>	56	23.8%
欧州*	48	△ 311	<b>△ 268</b>	42	-
米州	29	42	<b>43</b>	0	1.0%
海外生保	104	△ 2	<b>174</b>	177	-

※ 2021年度実績(△268億円)は、2020年度の連結決算に追加計上した北米寒波ロスの影響(△101億円)を含む。同影響を除いた当期純利益は△166億円。

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2021年度通期) 主要2社の業績概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
	2020年度	2021年度	増収率	2021年度	増収率	2021年度	増収率
火災	4,411	4,362	Δ1.1%	2,366	1.4%	1,996	Δ3.9%
海上	600	691	15.1%	623	17.5%	68	Δ2.6%
傷害	2,036	2,081	2.2%	1,487	2.1%	594	2.6%
自動車	14,129	14,365	1.7%	6,885	0.7%	7,480	2.5%
自賠責	3,006	2,809	Δ6.5%	1,454	Δ7.6%	1,355	Δ5.4%
その他	4,225	4,395	4.0%	2,975	3.8%	1,419	4.4%
合計	28,409	28,706	1.0%	15,793	1.3%	12,913	0.8%
除く家計地震・自賠責	25,399	25,894	1.9%	14,337	2.3%	11,557	1.6%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2021年度通期) 主要2社の業績概要 2

### EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2020年度	2021年度	前期比	2020年度	2021年度	前期比
火災 (除く家計地震)	86.2%	<b>80.5%</b>	Δ5.7pt	66.9%	<b>64.3%</b>	Δ2.6pt
海上	57.9%	<b>62.8%</b>	4.9pt	57.9%	<b>62.8%</b>	4.9pt
傷害	50.4%	<b>54.8%</b>	4.4pt	50.4%	<b>54.8%</b>	4.4pt
自動車	54.4%	<b>56.9%</b>	2.5pt	54.2%	<b>56.6%</b>	2.4pt
その他	61.2%	<b>59.2%</b>	Δ2.0pt	60.4%	<b>58.5%</b>	Δ1.9pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	60.5%	<b>61.3%</b>	0.8pt	57.1%	<b>58.3%</b>	1.2pt

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) 国内損害保険会社(2021年度通期) 主要2社の業績概要 3

### EI損害率(三井住友海上(単体)、あいおいニッセイ同和損保(単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災 (除く家計地震)	78.4%	Δ7.1pt	82.9%	Δ4.0pt	66.7%	Δ1.9pt	61.6%	Δ3.4pt
海上	60.2%	4.0pt	84.5%	13.1pt	60.2%	4.0pt	84.5%	13.1pt
傷害	54.4%	5.7pt	55.7%	0.8pt	54.4%	5.8pt	55.7%	0.8pt
自動車	57.7%	1.8pt	56.1%	3.1pt	57.6%	1.9pt	55.8%	3.0pt
その他	58.3%	Δ2.8pt	61.3%	0.1pt	57.7%	Δ2.6pt	60.2%	Δ0.3pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	61.0%	0.2pt	61.6%	1.5pt	58.9%	1.0pt	57.5%	1.5pt

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) MS Amlin 2021年度(2021年1-12月期)業績概要※1

- ・2021年度の正味収入保険料は、収益性の高い種目を中心とした引受拡大、料率引上げ等を主因に132百万ポンド増収。
- ・当期純利益は、北米寒波・欧州洪水・ハリケーンアイダなどの自然災害の影響に加え、再保険事業の一部一般種目の備金水準の引上げや、インフレ等による悪化リスクに備えた積立を行ったことにより△190百万ポンドとなった(前期比31百万ポンドの増益)。

(百万ポンド)

	2020年度	2021年度	
			前期比
正味収入保険料	2,681	2,814	132
アード保険料	2,937	2,665	Δ272
インカードロス(含む損害調査費)	2,196	1,944	Δ253
手数料・社費	1,011	912	Δ99
保険引受利益	Δ277	Δ197	79
資産運用損益※2	144	101	Δ43
その他損益※3	Δ99	Δ96	3
当期純利益	Δ222	Δ190	31
グループ修正利益※4	Δ265	Δ110	155
EI 損害率	74.8%	72.9%	Δ1.9pt
EI 事業費率※5	34.6%	34.5%	Δ0.1pt
EI コンバインド・レシオ※5	109.4%	107.4%	Δ2.0pt

※1 現地管理ベース

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

※4 2021年度実績は、2020年度に連結決算上追加計上した北米寒波ロス影響の戻入+69百万ポンド等を反映したベース

※5 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を含めて算出。

	2020年度	2021年度			
		うちAUL	うちAAG	うちAISE	
大口自然災害 インカードロス	169	296	104	177	14
新型コロナに係る インカードロス	313	13	Δ17	38	Δ9

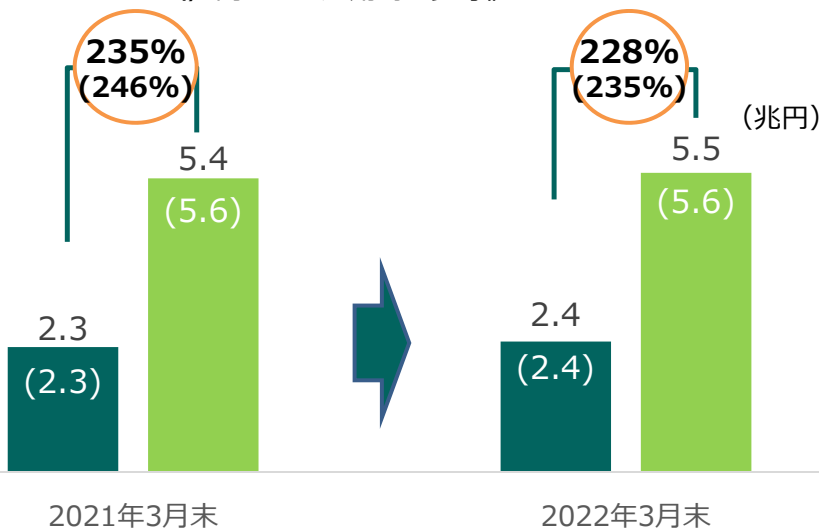
(AUL:ロイズ事業、AAG:再保険事業、AISE:欧州元受保険事業)

## (ご参考) ESRの状況

### ESR<sup>(注1)</sup>

■ 統合リスク量<sup>(注2)</sup> ■ 時価純資産

( ) 内はUFR適用時の参考値



### <ESRの主な増減要因> (2021年3月末対比)

ESRは、主に以下の要因により△7pt低下。

- ✓ 時価純資産は、劣後債を償還した一方で、内部留保の増加や、円安および国内金利の上昇等により増加。
- ✓ 統合リスク量は、円安およびリスク計測の高度化<sup>(注3)</sup>等により増加。

(注3)主な改定内容 (ESR影響△14pt程度)

- ・自然災害モデルの改定 (近年発生した自然災害の取込み)
- ・気候変動にかかる不確実性をリスクとして認識
- ・資産運用リスク計測の高度化・精緻化

### <市場環境前提>

	2021年 3月末	2022年 3月末	対2021年 3月末比
日経平均株価	29,179円	27,821円	△1,358円
国債30年金利	0.67%	0.94%	+0.27pt
為替 (ドル円)	111円	122円	+11円

(注1) ESR : エコノミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

## 2022年度業績予想

## グループ連結（2022年度業績予想）①概要1（トップライン）

- ・損保子会社の正味収入保険料は1,439億円の増収。国内損保子会社は自動車保険、火災保険等を中心に増収。海外保険子会社はMS Amlinの料率引上げや為替影響により増収。
- ・生保子会社のグロス収入保険料は△234億円の減収。

### 損保子会社

(億円)

	2021年度	2022年度(予想)		
			前期比	増収率
正味収入保険料	36,090	<b>37,530</b>	1,439	4.0%
三井住友海上	15,793	<b>16,170</b>	376	2.4%
あいおいニッセイ同和損保	12,913	<b>13,070</b>	156	1.2%
三井ダイレクト損保	354	<b>362</b>	7	2.3%
海外保険子会社	7,030	<b>7,920</b>	889	12.7%

### 生保子会社

(億円)

	2021年度	2022年度(予想)		
			前期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)*	13,144	<b>12,910</b>	△ 234	△ 1.8%
三井住友海上あいおい生命	5,019	<b>4,910</b>	△ 109	△ 2.2%
三井住友海上プライマリー生命	8,124	<b>8,000</b>	△ 124	△ 1.5%
生命保険料	5,200	<b>5,000</b>	△ 200	△ 3.9%

\* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

## グループ連結（2022年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

- ・当期純利益は、海外保険子会社が増益となるものの、国内生保子会社の減益などにより△227億円減益の2,400億円。
- ・国内損保子会社は、アード保険料は増加するものの、インカードロスの増加や、前期の初年度収支残取崩の反動などにより横ばい。国内生保子会社はMSP生命が前期の円安によるターゲットヒットの影響の反動などから△380億円の減益。
- ・海外保険子会社はP35を参照。

(億円)

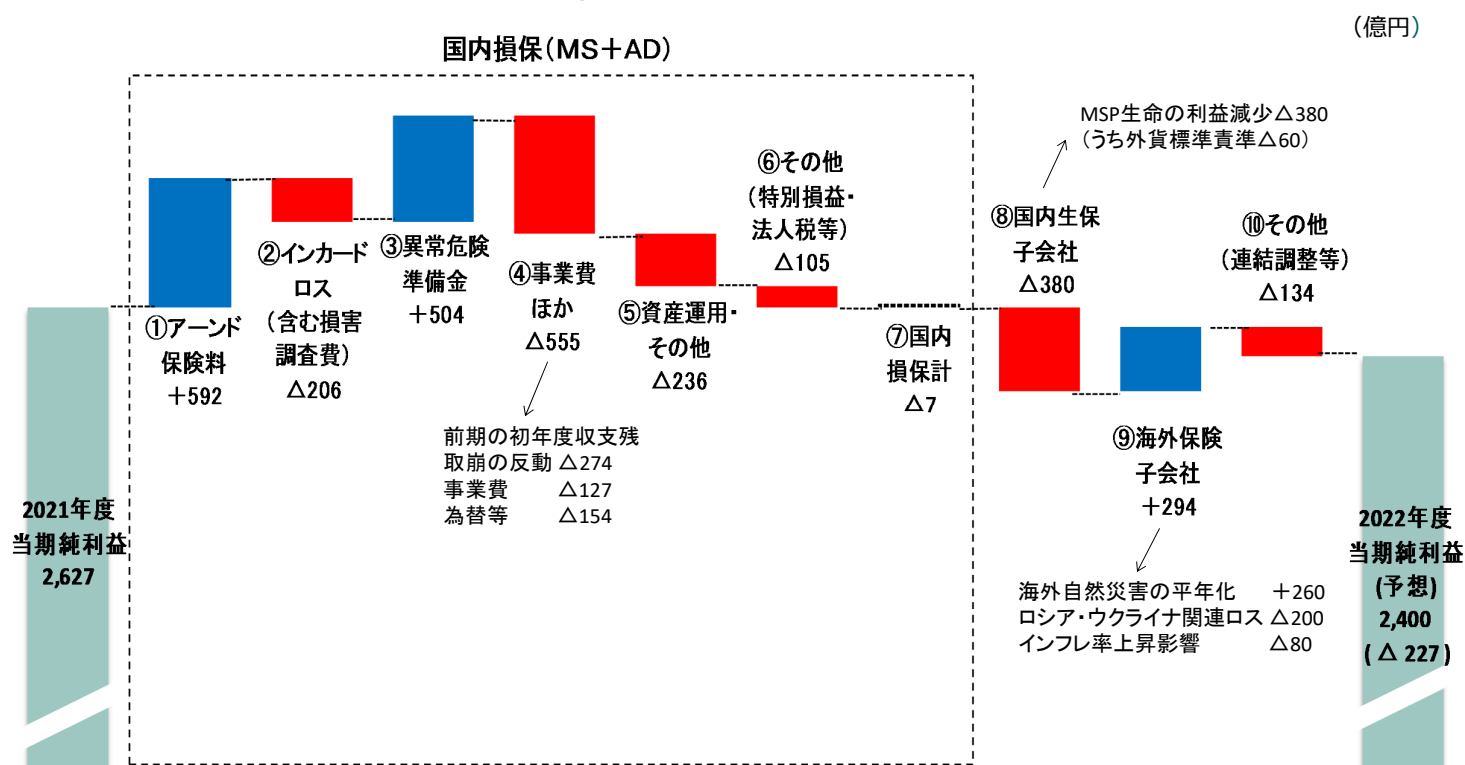
	2021年度	2022年度(予想)	
			前期比
経常利益	3,904	<b>3,500</b>	△ 404
三井住友海上	1,842	<b>1,800</b>	△ 42
あいおいニッセイ同和損保	809	<b>950</b>	140
当期純利益*	2,627	<b>2,400</b>	△ 227
三井住友海上	1,457	<b>1,350</b>	△ 107
あいおいニッセイ同和損保	539	<b>640</b>	100
三井ダイレクト損保	7	<b>0</b>	△ 7
三井住友海上あいおい生命	210	<b>210</b>	-
三井住友海上プライマリー生命	530	<b>150</b>	△ 380
海外保険子会社	245	<b>540</b>	294
その他・連結調整等	△ 363	<b>△ 490</b>	△ 127
ROE(財務会計ベース)	8.3%	<b>7.1%</b>	△ 1.2pt

\*連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

## グループ連結（2022年度業績予想）②前期比増減要因

- ・当期純利益は、海外保険子会社(⑨)が増益となるものの、国内生保子会社(⑧)の減益を主因に△227億円の減益。
- ・国内損保計(⑦)は、アード保険料は増加するものの、インカードロス(②)の増加、前期の初年度収支残の取崩の反動、資産運用・その他の減少などによりほぼ横ばい。国内生保子会社(⑧)はMSP生命の前期のターゲットヒットの影響の反動等により減益。海外保険子会社(⑨)はMS Amlinの収益回復を主因に増益。

### 連結純利益の前期比増減要因



## グループ連結（2022年度業績予想）③グループ修正利益

- ・グループ修正利益は、海外事業が増益となるものの、国内損保事業、国内生保事業の減益などにより△471億円の減益。

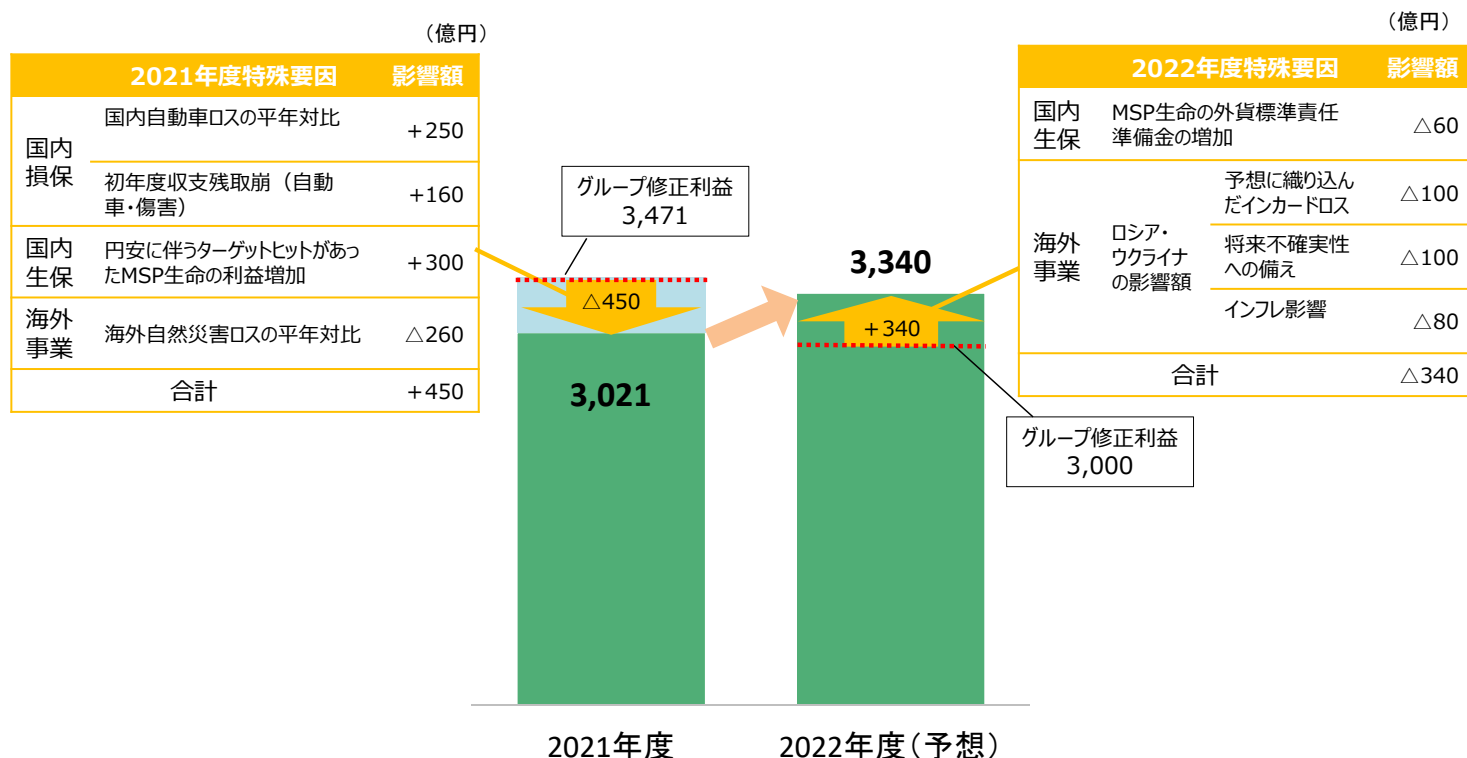
(億円)

	2021年度	2022年度(予想)	
			前期比
グループ修正利益	3,471	3,000	△471
国内損保事業	2,307	1,940	△367
国内生保事業	757	380	△377
海外事業	343	640	296
金融サービス事業/リスク関連事業	63	40	△23
その他経営数値目標			
MSA生命 EEV	9,236	9,700	463
グループ修正ROE	9.5%	7.6%	△1.9pt

# グループ連結（2022年度業績予想）④グループ修正利益

・2022年度のグループ修正利益は、2021年度・2022年度のそれぞれの特殊要因を除いた実力値ベースでは増益の予想。

## 特殊要因除きのグループ修正利益



## 今回業績予想の主な前提

	三井住友海上	あいおいニッセイ同和損保
市場環境の前提	2022年3月末の水準を想定 〔 参考(2022年3月末) 日経平均 27,821円、米ドル 122円、ユーロ 137円、英ポンド 161円 〕	
国内自然災害	400億円 (+137億円)	325億円 (+109億円)
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	255億円 (+21億円)
	取崩	323億円 (+190億円)
	積増	△68億円 (△169億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	223億円 (+2億円)
	取崩	43億円 (+43億円)
	積増	180億円 (△40億円)
法定実効税率	27.9%	

※ 海外自然災害について、MS Amlinは257億円(△191億円)。

あいおいニッセイ同和損保は125億円(△127億円)。

※ ( )内は前期比



## 国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 1

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	29,240	533	16,170	376	13,070	156
アーンド保険料 <sup>※2、※3</sup>	26,380	592	14,699	430	11,681	161
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup> (－)	16,005	206	8,914	209	7,091	△ 2
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup> (－)	9,044	128	4,950	107	4,094	21
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	5,582	72	2,976	51	2,606	21
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	3,462	55	1,974	56	1,488	-
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,283	△ 169	797	△ 62	486	△ 107
異常危険準備金損益	△ 233	504	△ 277	171	44	332
保険引受利益	1,050	334	520	109	530	224
EI損害率 <sup>※2</sup>	60.7%	△ 0.6pt	60.6%	△ 0.4pt	60.7%	△ 0.9pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	62.7%	3.3pt	61.7%	2.7pt	64.1%	4.3pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	33.7%	△ 0.2pt	33.0%	0.0pt	34.7%	△ 0.3pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	96.4%	3.1pt	94.7%	2.7pt	98.8%	4.0pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※3 アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 2

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
保険引受利益	1,050	334	520	109	530	224
ネット利息及び配当金収入	1,464	25	1,053	46	411	△ 20
有価証券売却損益	617	△ 463	391	△ 516	226	53
有価証券評価損 (－)	74	△ 270	34	△ 272	40	1
資産運用・その他収支	1,700	△ 236	1,280	△ 151	420	△ 84
経常利益	2,750	98	1,800	△ 42	950	140
特別損益	△ 183	△ 118	△ 78	△ 98	△ 105	△ 19
当期純利益	1,990	△ 7	1,350	△ 107	640	100

## 主要項目

(億円)

	2021年度	2022年度(予想)	
			増減率/前期比
新契約高 <sup>※</sup>	16,904	<b>16,894</b>	△0.1%
新契約年換算保険料 <sup>※</sup>	269	<b>309</b>	15.0%
保有契約高 <sup>※</sup>	238,477	<b>237,133</b>	△0.6%
保有契約年換算保険料 <sup>※</sup>	4,438	<b>4,451</b>	0.3%
保険料(グロス収入保険料)	5,019	<b>4,910</b>	△109
経常利益	390	<b>392</b>	2
当期純利益	210	<b>210</b>	-

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

## 主要項目

(億円)

	2021年度	2022年度(予想)	
			増減率/前期比
新契約高	8,196	<b>8,427</b>	2.8%
保有契約高	68,036	<b>65,460</b>	△ 3.8%
保険料(グロス収入保険料)	8,124	<b>8,000</b>	△ 125
経常利益	877	<b>206</b>	△ 672
当期純利益	530	<b>150</b>	△ 380

## 海外保険子会社（2022年度業績予想）

- ・ 正味収入保険料は、MS Amlinでの料率引上げや為替影響による増収を主因に889億円の増収。
- ・ 当期純利益は、欧州の324億円増益を主因に294億円の増益。MS AmlinについてはP38を参照。

### 海外保険子会社

(億円)

	2021年度	2022年度(予想)	
			前期比
正味収入保険料	7,030	<b>7,920</b>	889
アジア	1,785	<b>2,079</b>	294
欧州	4,773	<b>5,232</b>	458
米州	471	<b>609</b>	137
当期純利益	245	<b>540</b>	294
アジア	296	<b>282</b>	△ 14
欧州	△ 268	<b>56</b>	324
米州	43	<b>33</b>	△ 10
海外生保	174	<b>169</b>	△ 5

## (ご参考) 国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	<b>4,547</b>	4.2%	<b>2,542</b>	7.4%	<b>2,005</b>	0.4%
海上	<b>686</b>	△0.8%	<b>628</b>	0.8%	<b>58</b>	△14.9%
傷害	<b>2,136</b>	2.6%	<b>1,537</b>	3.3%	<b>599</b>	0.8%
自動車	<b>14,588</b>	1.5%	<b>6,963</b>	1.1%	<b>7,625</b>	1.9%
自賠責	<b>2,753</b>	△2.0%	<b>1,415</b>	△2.7%	<b>1,338</b>	△1.3%
その他	<b>4,530</b>	3.1%	<b>3,085</b>	3.7%	<b>1,445</b>	1.8%
合計	<b>29,240</b>	1.9%	<b>16,170</b>	2.4%	<b>13,070</b>	1.2%
除く家計地震・自賠責	<b>26,481</b>	2.3%	<b>14,750</b>	2.9%	<b>11,731</b>	1.5%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度業績予想) 主要2社の概要 2

### EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	68.0%	△12.5pt	68.1%	△10.3pt	68.0%	△14.9pt
海上	51.0%	△11.8pt	50.8%	△9.4pt	52.5%	△32.0pt
傷害	55.5%	0.7pt	54.9%	0.5pt	57.0%	1.3pt
自動車	60.1%	3.2pt	61.2%	3.5pt	59.1%	3.0pt
その他	58.9%	△0.3pt	57.9%	△0.4pt	61.0%	△0.3pt
合計(除く家計地震・自賠償)	60.7%	△0.6pt	60.6%	△0.4pt	60.7%	△0.9pt
(除く自然災害影響)	57.5%	△0.8pt	57.9%	△1.0pt	56.9%	△0.6pt

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) MS Amlin2022年度(2022年1-12月期)業績予想

- ・2022年度の正味収入保険料は、料率引上げ・良績種目拡大等により、増収を見込む。
- ・当期純利益は、前期の自然災害、一部一般種目の備金水準の引上げ等の影響が剥落する一方で、2月以降のロシア・ウクライナ関連影響を約124百万ポンド<sup>※1</sup> 織り込んだこと等により、当期純利益は20百万ポンドを見込む(前期比211百万ポンドの改善)。

(百万ポンド)

	2021年度	2022年度(予想)	
			前期比
正味収入保険料	2,814	2,903	89
アード保険料	2,665	2,786	121
インカードロス(含む損害調査費)	1,944	1,741	△ 202
保険引受利益	△ 197	16	214
資産運用損益 <sup>※2</sup>	101	48	△ 53
その他損益 <sup>※3</sup>	△ 96	△ 38	58
当期純利益	△ 190	20	211
グループ修正利益	△ 110	24	134

※1 ロシアのウクライナ侵攻に関連して、財物・貨物等を中心にインカードロスを保守的に見込んだ金額はMS Amlin各社合計で、60百万ポンド。終息時期が見通せないことや約款解釈など様々な不確定要素があることを踏まえ、通期予想においては追加で64百万ポンドを予備的に織り込んでいる。なお、現時点では、具体的な保険金請求はまだ生じていない。

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

AUL(＝MS Amlin Underwriting Limited)

AAG(＝MS Amlin AG)

AISE(＝MS Amlin Insurance SE)

ACS(＝MS Amlin Corporate Services Limited)

## 「グループ修正利益、修正純資産、グループ修正ROE」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因 (のれん・その他無形固定資産償却額等) + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産 (期初・期末平均)

## 予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社  
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>